

第2次

清瀬市

教育総合計画

マスタープラン

実行計画

子供が育つ

市民が育つ

まちも育つ

清瀬の教育

平成30年度～32年度

目 次

● 第2次清瀬市教育総合計画マスタープラン実行計画の概要	1
● 方向性別指標及び事務事業	
健幸で生きがいのある学び・活動を支援します	
方向性 1 市民ニーズに応じた生涯学習活動の支援	3
方向性 2 生涯学習施設の学びとコミュニティ機能の推進	4
方向性 3 「生きる力・考える力」を高め、伝えるための世代を超えた学びの場の提供	5
家庭の教育力向上を支援します	
方向性 4 保護者への様々な学びや交流の場の提供	6
方向性 5 家庭の教育力向上のための普及・啓発	7
方向性 6 子育て、教育、生き方にかかわる支援体制の構築	8
学力を保証し健やかな心と体を育てます	
方向性 7 「確かな学力」の育成	9
方向性 8 学びへの関心や意欲を高めるための教育の推進	10
方向性 9 豊かな心と撓（しな）やかで強（したた）かな心の育成	11
方向性 10 運動習慣の確立による体力の向上	12
方向性 11 教育環境の整備	13
郷土の自然や文化への学びを支援します	
方向性 12 日本の良さ、清瀬の魅力を理解し、内外に向けて発信する力の育成	14
方向性 13 清瀬の文化や歴史を深く学ぶことのできる機能の強化	15
方向性 14 体験を通じた郷土文化の継承と郷土愛の醸成	16
地域力で清瀬の教育をつなぎます	
方向性 15 世代を超えた地域コミュニティの構築	17
方向性 16 地域力を学校に生かす仕組みづくりの推進	17

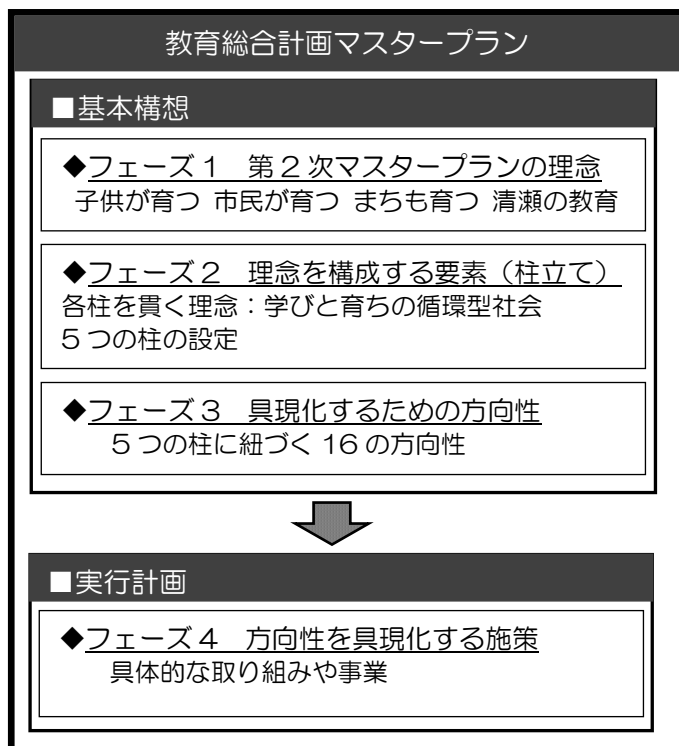
■第2次清瀬市教育総合計画マスタープランの概要

●計画の位置づけ

第2次清瀬市教育総合計画マスタープランは、「基本構想」と「実行計画」の2層で構成されています。

この「実行計画」は、「基本構想」で掲げる方向性を具現化するための具体的な取り組みや事業を示したものです。今回の計画は平成30年度から平成32年度となります。今後、社会経済情勢などに応じて適宜必要な見直しを毎年度行っていきます。

◇計画の体系（4つのフェーズ（階層））



◇基本構想の概略

基本理念	柱	施策の方向性
子供が育つ 市民が育つ まちも育つ 清瀬の教育	1 健幸で生きがいのある 学び・活動を支援します	1 市民ニーズに応じた生涯学習活動の支援
		2 生涯学習施設の学びとコミュニティ機能の推進
		3 「生きる力・考える力」を高め、伝えるための世代を超えた学びの場の提供
	2 家庭の教育力向上を支援 します	4 保護者への様々な学びや交流の場の提供
		5 家庭の教育力向上のための普及・啓発
3 学力を保証し健やかな 心と体を育てます	6 子育て、教育、生き方にかかわる支援体制の構築	
	7 「確かな学力」の育成	
	8 学びの関心や意欲を高めるための教育の推進	
	9 豊かな心と携（しな）やかで強（したた）かな心の育成	
4 郷土の自然や文化への 学びを支援します	10 運動習慣の確立による体力の向上	
	11 教育環境の整備	
	12 日本の良さ、清瀬の魅力を理解し、内外に向けて発信する力の育成	
5 地域の力で清瀬の教育を つなぎます	13 清瀬の文化や歴史を深く学ぶことのできる機能の強化	
	14 体験を通じた郷土文化の継承と郷土愛の醸成	
	15 世代を超えた地域コミュニティの構築	
	16 地域の力を学校に生かす仕組みづくりの推進	

◇基本構想で示された5つの柱

1 健幸^(※1)で生きがいのある学び・活動を支援します

生涯学習の機会を充実させ、市民の学びに対する意欲を高めます。また、生涯学習施設を、市民が集いネットワークを広げることができるような拠点とすることで、健幸で生きがいのある学びや生活づくりへの支援をします。

2 家庭の教育力向上を支援します

子供が規範意識や公共心を高め、他者との関係を築きながら自立した社会生活を送ることができるよう、様々な関係機関と連携して、育ちの基盤である家庭の教育力を高める支援を充実します。

3 学力を保証し健やかな心と体を育てます

激動の21世紀を生き抜くためには、社会生活を営むための基盤である「知」「徳」「体」をバランスよく育むことが必要です。校長のリーダーシップにより、児童・生徒の学力を高めるとともに、命の尊さを実感し自らの健康を保持増進できる力を育成します。

また、児童・生徒に対する教育効果を最大限高めるために、良好な教育環境の整備を推進します。

4 郷土の自然や文化への学びを支援します

清瀬の特色を活かした活動を推進することにより、清瀬の文化・歴史に対する理解と、郷土への愛着を深めるとともに、郷土文化を確実に伝承・継承します。

5 地域ので清瀬の教育をつなぎます

地域コミュニティの機能が希薄な現代において、人と社会をつなげる地域の役割はとても重要です。地域コミュニティの体制を整備することにより、生涯学習、家庭、学校、郷土文化を地域のでつなぎ、清瀬の教育の充実と地域の活性化を目指します。

※1 「健康」と「幸福」の二つの意味が込められた言葉

健幸で生きがいのある学び・活動を支援します

方向性1 市民ニーズに応じた生涯学習活動の支援

新たな知識や技術を習得したいという市民の思いやスポーツ活動など、生涯にわたって生きがいのある活動をするための支援をします。また、生涯学習への意識を的確に把握し、情報を発信することで市民のニーズに対応した生涯学習活動を充実させます。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
「この一年で生涯学習を行う機会をもつことができた」と回答した割合	14.2% (H29年度世論調査)	H29年度調査 +1.5%	H32年度調査 +1.5%

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
生涯学習 スポーツ課	シニアカレッジ等 講座検証 (135回 延べ3,700人)	講座等充実 (135回 延べ3,750人)	⇒ (135回 延べ3,750人)
	石田波郷俳句大会 (投句数 11,500句)	⇒ (投句数 11,500句)	⇒ (投句数 11,500句)
	生涯学習活動の推進にかかわる基本方針の策定	生涯学習活動の推進にかかわる基本方針による事業推進	⇒
	スポーツ振興にかかわる基本方針の策定	基本方針による事業推進	⇒
	生涯学習情報の提供 (「まなびすと」の発行) (750部発行)	⇒ (750部発行)	⇒ (750部発行)
	オリンピック・パラリンピック気運醸成事業実施	⇒	⇒
	内山運動公園周辺 駐車場等用地取得	内山運動公園周辺 環境整備	⇒
	なでしこリーガーによる サッカー教室開催	⇒	⇒
	少年・少女サッカー大会 開催 (23チーム 240人)	⇒ (24チーム 255人)	⇒ (25チーム 270人)

健幸で生きがいのある学び・活動を支援します

方向性2 生涯学習施設の学びとコミュニティ機能の推進

図書館や郷土博物館などの生涯学習施設は、いつでも誰でも学ぶことのできる場としてだけでなく、市民が集いネットワークを広げる場でもあります。世代を超えた交流などの情報の拠点として様々な事業を実施し、いつでも必要な情報を得られる学習機能の充実を図ります。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
「これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしている」と回答した割合	29.4% (H29年度世論調査)	H29年度調査 +3%	H32年度調査 +3%

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
図書館	図書館サービスボランティアの育成（29人）	⇒ （31人）	⇒ （33人）
	読書交流会 （年3回 35人）	⇒ （年3回 40人）	⇒ （年3回 45人）
	子ども向け事業（ワークショップと一体型の読み聞かせ、DVD上映会等）の拡充（18回）	⇒ （18回）	⇒ （18回）
郷土博物館	清瀬の富士講展（2,000人）、渡辺うめ人形展（3,000人）、の実施	映像で遊ぼう展（3,000人） 超精密なジオラマ展	縄文展（清瀬出土陶磁器展）
	企画展（染める織る展）・年中行事・コンサート・映画会、歴史・自然講座、講習会等の開催（1,500人）	⇒ （1,550人）	⇒ （1,600人）
	郷土博物館空調設備排煙設備等（外壁・トイレ含む）改修工事・工事監理	郷土博物館電気施設及びギャラリー改修工事	伝承スタジオ改修工事
生涯学習スポーツ課	指定管理者自主事業の実施・コミュニティプラザ・けやきホール・地域市民センター（延べ24,200人）	⇒ （延べ24,400人）	⇒ （延べ24,400人）
	スポーツ施設の維持補修・管理（サッカー場人工芝メンテナンス）	スポーツ施設の維持管理	⇒

健幸で生きがいのある学び・活動を支援します

方向性3 「生きる力・考える力」を高め、伝えるための世代を超えた学びの場の提供

人が社会の中で主体的に活動していくためには、自ら考え行動することが必要です。学校教育で育まれた「生きる力・考える力」を地域で実践することで、人や社会、自然と関わる機会を創りだすとともに、市民が学びへの意欲を体験活動によってさらに深めることで、世代を超えた新たな学びの拡大につながります。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
生涯学習活動団体「まなびすと」の登録団体数	122 団体	125 団体	130 団体
スポーツレクリエーション競技団体数	34 団体	35 団体	37 団体
芸術・文化を鑑賞する、または活動を行う団体数	93 団体	94 団体	96 団体

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
生涯学習 スポーツ課	シニアカレッジ等 講座検証（再掲） (135回 延べ3,700人)	講座等充実 (135回 延べ3,750人)	⇒ (135回 延べ3,750人)
	生涯学習情報の提供 (「まなびすと」の発行) (750部発行) (再掲)	⇒ (750部発行)	⇒ (750部発行)
	市民文化祭の開催 (2日間 31団体)	⇒ (2日間 32団体)	⇒ (2日間 32団体)
	地域内での健康増進・交流 促進(美しくウォーキング) (1400人)	⇒ (1450人)	⇒ (1,500人)
郷土博物館	きよせ郷土カルタ大会検討	きよせ郷土カルタ大会の 試行・検証	⇒

家庭の教育力向上を支援します

方向性4 保護者への様々な学びや交流の場の提供

家庭環境が多様化する中で、保護者が安心して子供を育て、また子供も健やかに成長していくために家庭への支援が求められます。図書館や郷土博物館などの生涯学習施設では学習機会の提供だけでなく、積極的に事業を実施し、地域や児童福祉の分野とも連携を図りながら、多様な学びや交流の場を提供します。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
子育て中の親同士が交流できる場所の充実の構成比の割合	17.8% (H29年度世論調査)	H29年度調査 +1.03%	H32年度調査 +1.03%

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
図書館	子ども向け事業(子ども会、DVD鑑賞会等)の拡充 (18回) (再掲)	⇒ (18回)	⇒ (18回)
	ブックスタート事業実施 (乳幼児や保護者に向けたおはなしの時間) (60回 950人)	⇒ (60回 975人)	⇒ (60回 1,000人)
郷土博物館	宿泊体験学習・親子で郷土料理作りの実施	宿泊体験学習・親子で郷土料理作りの実施企画展 「映像で遊ぼう展」	宿泊体験学習・親子で郷土料理作りの実施
生涯学習 スポーツ課	指定管理者自主事業の実施 ・コミュニティプラザ・けやきホール・地域市民センター (延べ24,200人) (再掲)	⇒ (延べ24,400人)	⇒ (延べ24,400人)

家庭の教育力向上を支援します

方向性5 家庭の教育力向上のための普及・啓発

地域における支え合いの機能が弱まる中、家庭の社会と関わる力の向上には、積極的に地域の活動に参画することが有効です。子供の学びと育ちを支える地域の活動や、子育てに関する情報を提供します。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
教育委員会ホームページアクセス数	15,955件	18,300件	19,100件
学校給食レシピのアクセス数	905件	1,000件	1,600件

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
教育総務課	教育委員会だより発行 (年1回)	⇒	⇒
	食育情報の発信 (学校給食レシピの ホームページ更新)	⇒	⇒
	学校給食における地場産物 配送事業(全校)	⇒ 学校への地場産物活用拡大 に向けた体制の構築	⇒
	情報発信ツールの研究	情報発信ツールの検討	情報発信ツールの試行
	教育委員とPTAの 懇談会の開催 (2回)	⇒ (3回)	⇒ (4回)
指導課	家庭教育の手引き 作成検討	作成	活用、効果検証
図書館	ブックスタート事業実施 (3・4か月健診で絵本の 配布、1歳6か月健診で ブックリストの配布) (24回 対象者100%配布)	⇒ (24回 対象者100%配布)	⇒ (24回 対象者100%配布)

家庭の教育力向上を支援します

方向性6 子育て、教育、生き方にかかわる支援体制の構築

子育てについて悩みや不安を抱え、孤立する家庭が相談・交流できる支援体制を整えます。また、地域人材の積極的な活用や関係機関との連携により、地域全体で家庭教育を支える仕組みづくりを目指します。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
気軽に相談できる体制の確立 (新規相談に対応できる件数)	120件	130件	150件
スクールソーシャルワーカーの不登校児童・生徒への対応評価（「好転」の割合）	80%	82%	85%
フレンドルームに通室する児童・生徒の通室率（1/2以上）	58%	60%	65%

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指導課	教育相談センターの運営 (悩みや困難を抱えた児童・生徒・保護者の課題解決、教育相談の実施、学校適応支援、スクールソーシャルワーカーによる対応等)	教育相談センターの機能強化（適応指導教室における個別学習の実施、指導員のスキルアップ、就学相談班の合流等）	⇒
	総合相談支援センター検討	⇒	⇒

学力を保証し健やかな心と体を育てます

方向性7 「確かな学力」の育成

児童・生徒の力を最大限伸ばし、目標のある生涯を送るためには、自らの力で課題を解決し実行する「生きる力」や、じっくりと考え、適切に判断できる「考える力」が必要です。これらの力を育むために基礎学力や思考力・判断力・表現力等の定着を図ります。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
東京都「学力向上を図るための調査」における平均正答率	<ul style="list-style-type: none"> 都平均—3.8% (小学校) 都平均—3.7% (中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> 都平均—2% (小学校) 都平均—2% (中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> 都平均±0% (小学校) 都平均±0% (中学校)

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指導課	放課後補習教室実施 (語彙力強化についての効果検証)	⇒ (内容の見直し・拡充)	⇒ (内容の見直し・拡充)
	外国人英語指導助手 (小学校20時間(高学年) 中学校25時間)	外国人英語指導助手 (小学校10時間(中学年)、35時間 (高学年)、中学校25時間)	JETプログラム等の 活用検討
	学級経営補助員及び日本語 指導員の配置(学級経営補助員 は、学校の判断で活用できるように 運用方法の変更)	⇒	⇒
	イングリッシュキャンプ(2 泊3日)の実施、 事前学習会実施、成果検証	⇒	⇒
	特色ある学校づくり・校長の 経営力の向上(教育委員向けの 校長による説明会の開催)	⇒	⇒
	市学力調査 (大学等と連携した効果検証)	⇒	⇒
	小学校特別支援教室開設 (小学校全校)	小学校特別支援教室運営 (全9校)	⇒
	中学校特別支援教室開設に 向けた準備(五中)	中学校全校開設 (拠点校:五中) (巡回校:清中、二中、三中、四中)	中学校特別支援教室運営 (全5校)

学力を保証し健やかな心と体を育てます

方向性8 学びへの関心や意欲を高めるための教育の推進

児童・生徒の学力を高めるためには、学習内容への興味・関心や、意欲的に学習する態度が不可欠です。指導法の工夫や教育機器の適切な活用によってこれらの力を育みます。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
東京都「学力向上を図るための調査」における平均正答率（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 都平均—3.8% (小学校) 都平均—3.7% (中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> 都平均—2% (小学校) 都平均—2% (中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> 都平均±0% (小学校) 都平均±0% (中学校)
「先生は理解していないところなど分かるまで教えてくれる」と答えた児童の割合	83.3%	85%	90%
「ICTを活用した学習指導を行った」と回答した学校の割合	66.7%	70%	80%

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指導課	指導課主催研修会の実施	指導課主催研修会の見直し・充実	⇒
	学級経営の診断調査の実施	実施対象学年の拡充及び診断結果の活用に向けた研修の充実	⇒
	アクティブラーニング等の研究指定校の発表・発信、全校での共有	各校アクティブラーニングリーダーによる授業公開	アクティブラーニングリーダーによる授業公開（拡充）
教育総務課 指導課	タブレット型パソコン移行3校（計14校）	ICT教育推進（効果検証）	⇒
図書館	学校・保護者への図書貸し出し実施	⇒	⇒
	第3次清瀬市子ども読書活動推進計画の策定	計画に掲げた施策の実施	⇒

学力を保証し健やかな心と体を育てます

方向性9 豊かな心と^{しな}撓^{したた}やかで強かな心の育成

グローバルな社会で活動していくためには、個性を発揮しながら、自他を尊重できる豊かな心と困難に直面してもくじけない心の強さが必要です。ボランティア活動等の社会貢献や困難を乗り越える体験等によって健全な心を育みます。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
児童・生徒の「自己肯定感」にかかわるアンケート調査(自分には良いところがある)の肯定的回答率	・72% (小学校) ・62% (中学校)	・75% (小学校) ・65% (中学校)	・80% (小学校) ・70% (中学校)
不登校者数(不登校出現者数)の割合	・0.65% (小学校) ・2.69% (中学校)	・0.55% (小学校) ・2.60% (中学校)	・0.45% (小学校) ・2.50% (中学校)
いじめ解消率	50%	55%	60%

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指導課	「命の教育」にかかわる体験活動の改善	「命の教育」にかかわる体験活動の検証・実施	⇒
	学校図書館運営支援員の配置・「清瀬の100冊」の活用	⇒	⇒
	健全育成委員会の活動支援	⇒	⇒
	「清瀬市郷土資料集」の見直し・改善	「清瀬市郷土資料集」の冊子化	「清瀬市郷土資料集」冊子の活用
	教育相談センターの運営(悩みや困難を抱えた児童・生徒・保護者の課題解決、教育相談の実施、学校適応支援、スクールソーシャルワーカーによる対応等) (再掲)	⇒	⇒
教育総務課	教育と医療機関の連携の拡充	⇒	⇒

学力を保証し健やかな心と体を育てます

方向性 10 運動習慣の確立による体力の向上

生涯にわたって健康を保持増進するためには、運動を日常化し主体的に身体を動かす習慣を身に付けることが大切です。運動への興味・関心を高め、基礎体力の維持・向上と運動をすることの喜びを味わう取り組みを進めます。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
体力テストの結果が都の平均値を超える学年の割合	14%	35%	50%
1日の運動時間が30分未満の子供の割合	・16.9% (小) ・20.6% (中)	・15%以下 (小) ・18%以下 (中)	・13%以下 (小) ・16%以下 (中)

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指導課	オリンピック・パラリンピック教育の推進事業 (都による全校指定)	充実	オリンピック・パラリンピック東京大会開催に向けた取組み
	体力テストの実施 (全校・全学年)	体力テストの改善計画策定	体力テストの改善計画実施
	課外部活動指導員配置	⇒	⇒
	東京駅伝の参加 (中学校2年生)	⇒	⇒
	体力向上に関する1校1取組の継続 (全校・全学年)	⇒	⇒
生涯学習 スポーツ課	小中学生陸上記録会の実施 (400人)	⇒ (425人)	⇒ (450人)
	小中学生水泳記録会の実施 (120人)	⇒ (130人)	⇒ (140人)

学力を保証し健やかな心と体を育てます

方向性 11 教育環境の整備

学校施設の老朽化は国全体で大きな課題となっています。子供たちが安心して学校生活を送り、教育効果を最大限高めるための環境整備が必要です。義務教育学校などの諸制度や地域の学校としての複合的な機能など、今後の社会情勢を踏まえた新たな観点での検討を進めていきます。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
大規模改造が完了した学校数(小中合計14校)	10校	13校	—

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
教育総務課	校舎大規模改造工事 (七小・八小)	校舎大規模改造工事 (清明小)	—
	大規模改造実施設計 (清明小)	—	—
	中学校特別教室空調整備 事業工事(4校)	—	—
	中長期的な視点に立った 学校施設整備計画の検討	⇒	⇒

郷土の自然や文化への学びを支援します

方向性12 日本の良さ、清瀬の魅力を理解し、内外に向けて

発信する力の育成

市民生活の様々な場面において、清瀬の文化や歴史に触れる機会を増やし、知識や理解を深めます。また、我が国や清瀬の魅力を内外に向けて発信し、国際社会に生きる日本人としてのアイデンティティを育みます。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
参加者アンケートで「満足」と回答した割合	92% (企画展等調査結果)	⇒	⇒
旧森田家の入館者数	1,200人	1,400人	1,500人

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
郷土博物館	清瀬の富士講展(2,000人)、渡辺うめ人形展(3,000人)の実施(再掲)	企画展映像で遊ぼう展(3,000人)、超精密なジオラマ展の実施(再掲)	縄文展(清瀬出土陶磁器展)の実施
	企画展(染める織る展)・年中行事・コンサート・映画会、歴史・自然講座、講習会等の開催(1,500人)(再掲)	⇒ (1,550人)	⇒ (1,600人)
	清瀬の文化財散歩巡り実施要項作成	清瀬の文化財散歩巡り実施・検証	清瀬の文化財散歩巡り実施
	旧森田家を活用した年中行事(節分等)・郷土料理教室(うどん等)・邦楽コンサート(150人)	⇒ (200人)	⇒ (250人)
	郷土博物館ホームページの公開	郷土博物館ホームページの活用推進	郷土博物館専用ホームページの充実
指導課	「清瀬市郷土資料集」の見直し・改善(再掲)	「清瀬市郷土資料集」の冊子化	「清瀬市郷土資料集」冊子の活用

郷土の自然や文化への学びを支援します

方向性 13 清瀬の文化や歴史を深く学ぶことのできる機能の強化

図書館や郷土博物館を、市民にとってより身近な存在とし、いつでも誰でも清瀬の郷土文化について深く学ぶことができる専門機関としての機能を高めます。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
郷土博物館の入館者数	55,500人 (推定値)	56,000人	60,000人
図書館の「郷土資料」の蔵書数	1,327冊	1,400冊	1,550冊

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
図書館	結核関連コーナーの設置 (常設 H27～)	⇒	⇒
	郷土資料コーナー (常設)	⇒	⇒
	清瀬にゆかりのある 作家コーナー (常設)	⇒	⇒
郷土博物館	歴史講座の開設 子供歴史教室の開設	歴史講座の実施 子供歴史教室の実施	⇒
	清瀬史跡散歩の活用 (再掲)	⇒	⇒
	清瀬の文化財散歩巡り 実施要項作成 (再掲)	清瀬の文化財散歩巡り 試行・検証	清瀬の文化財散歩巡り実施
	常設展示・清瀬全史「新編 清瀬風土記」(H28開設)、 年4回テーマ展示実施	常設展示の部分的(近・現 代)リニューアル及び年4 回テーマ展示実施の継続	常設展示の部分的(縄文・ 古代)リニューアル及び年 4回テーマ展示実施の継続

郷土の自然や文化への学びを支援します

方向性 14 体験を通じた郷土文化の継承と郷土愛の醸成

市民の郷土への誇りを育むとともに、児童・生徒が伝統文化の尊さを理解し、伝承・継承の担い手になることを目指して、清瀬の資源である自然や、郷土芸能等の郷土文化を活かした体験活動を充実します。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
参加者アンケートで「理解が深まった」と回答した割合	80% (体験学習、歴史講座アンケート結果)	H29年度から +5%	H31年度から +5%

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
郷土博物館	郷土博物館による宿泊体験学習の実施	⇒	⇒
	子供歴史教室の開設(再掲)		
	郷土芸能育成(日枝神社清戸獅子舞、下宿囃子、中里富士山、下宿ふせぎなど)	⇒	⇒
	旧森田家を活用した年中行事(節分等)・郷土料理教室(うどん等)・邦楽コンサート・子供の昔遊び事業(150人)(再掲)	⇒ (200人)	⇒ (250人)
伝承スタジオ事業の開催(柏餅づくり・うどん作り・はたおり教室など) (875人)	⇒ (900人)	⇒	

地域ので清瀬の教育をつなぎます

方向性 15 世代を超えた地域コミュニティの構築

変化の激しい社会で自立して生活するためには、家庭・学校だけでなく地域社会での、世代・文化・生活様式等の異なる多様な人々との交流により、理解を深め、それぞれの持っている知識・技能を伝承・継承していくことでコミュニティの活性化を目指します。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
「地域のつながりや交流を感じている」と回答した割合（清瀬市世論調査）	32.2% (H29年度調査結果)	41.8% (H32年度世論調査)	54.4% (H35年度世論調査)

方向性 16 地域のを学校に生かす仕組みづくりの推進

学校を取り巻く環境は著しく変化しており、学校における教育活動への地域ボランティアの支援はますます重要となります。それらの支援が学校のニーズに合致するような仕組みをつくり、学校への支援を活性化させることで、学校を核にした地域コミュニティの構築を目指します。

指標

指標名	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成31年度)	目標値 (平成37年度)
学校支援地域組織の設置校数	2校	7校	9校
コミュニティスクールの校数	0校	0校	2校

関連する事務事業

担当課	平成30年度	平成31年度	平成32年度
生涯学習 スポーツ課	学校支援コーディネーターの育成(育成研修等の実施) (5人)	⇒ (7人)	⇒ (8人)
	学校支援地域本部の設立・運営の推進(5校)	⇒ (7校)	⇒ (8校)